

届けよう新しい声 築こう新たな地域のかたち

～世代にかかわらず男女が参画する社会へ～

九州農政局（九州農政局男女共同参画推進本部主催）では、平成22年11月24日、熊本市のくまもと県民交流館パレアにおいて、農山漁村における女性の経営参画・社会参画については、意識の高まりは見られるものの、なかなか若い世代の参画が進まないことが課題となっている中、今後、どのようにして若い世代も経営・社会に参画できる環境を整えていくか、その重要性と課題について認識共有を図ることを目的として、「届けよう新しい声 築こう新たな地域のかたち～世代にかかわらず男女（みんな）が参画する社会へ～」をテーマに農山漁村男女共同参画推進セミナーを開催しました。



セミナーでは、熊本県植木町「春果風」代表の宮本好美氏、長崎県五島市の山崎早苗氏、宮崎県都城市「きらり会」代表の松原和恵氏による事例発表、内閣府男女共同参画局長の岡島敦子氏による講演及びパネルディスカッションを行いました。

当日は、農業者、県・市町村、農業委員、JAの方など約250名と多くの参加をいただきました。

1 事例発表（女性起業グループ）

果樹生産・加工グループ 春果風 代表 宮本好美氏

【要旨】

①夫達の「女性の感性を活かして何かやってみたら」という一言がきっかけで桃の花見会の開催に至り、来客者の笑顔を見られたことがうれしくて、春果風を結成。現在、メンバー10名、平均年齢37歳。

②デコポンスムージーをはじめ、他業者の方々と連携し、商品開発に取り組み、自らイベントを企画し、地元の農産物・加工品のPRも併せて商品販売を行っている。活動は必ず夫婦で一緒に行っている。

③子育て中でも活動に取り組めるよう、子供達も巻き込んで活動をしている。若い女性であるからこそ、色々な発想が生まれる。男性社会と言われる農業の世界に女性の感性を呼び込み、男女がともに輝く地域づくりを進めることが必要。



④若い女性は、「やる気」を生みだし、自ら進んで組織と連携し、周りの人達を巻き込んでいてもらいたい。先輩農業者は他組織の方々との交流の場を設けていてもらいたい。

2 事例発表（若手女性農業者）

長崎県五島市 山崎早苗氏

【要旨】

①非農家からの I ターンで五島市に就農。I ターンのため、両親と同居もしておらず、稲刈り等は田んぼで1歳の子供を遊ばせながら作業をしていた。子供を預かってくれる環境がないと非農家からの参入者にとっては厳しいのが現状。

②農業は家族と一緒に濃い時間を過ごせることができ、子供に農業を体験させられることが魅力。農業は全ての分野につながっているので、興味があるものに目を向けてつなげていけばいい。農業は「うらやましい」と思える職業。

③先輩農業者、組織、地域の方は若手農業者のことを温かく見守ってほしい。子育て世代の女性が外に出ることを当たり前と感じてほしい。姑世代も積極的に活動すれば嫁の行動が気にならなくなるし、男性も生活の自立をする必要がある。

④今後は、今までの活動を持続させながら、技術の向上、直売所「かたし」の活動日数の増加及び雇用の生産、飲食店・宿泊施設への展開等農業だけでなく、地域全体の助け合い組織に広げていきたい。



3 事例発表（女性農業委員）

都城市女性農業委員 きらり会 代表 松原和恵氏

【要旨】

①都城市農業委員会は、委員45名中5名が女性。選任枠4名は全て女性で、選挙委員を私が努めている。4年半選任委員を務めていた時から、私の役目は選挙に出ることだと決めていた。

②都城市では、平成11年に女性委員2名が誕生。当時は女性が農業委員になるのは初めてのことで批判もあった。最初の女性2名のがんばりが今の活動につながっている。

平成18年、1市4町が合併した際、選任枠4名全てを女性にしてもらった。これにも男性側から反対があったが、女性の4組織から要請書を出して枠を確保し、現在に至っている。

③女性農業委員が5名になったことをきっかけに、きらり会を発足。きらり会として「女性リーダーの掘り起こしと認知度アップ」、「家族経営協定の推進」、「新規就農者を祝う会の開催」の3つの活動目標を立て、活動している。

④女性農業委員として地区外の方からも相談を受けるようになり、認められてきたと感じている。農村には1人暮らしの高齢女性が多い中、男性委員には言いづらいことを相談してくれる。やはり農業委員に女性は必要だと改めて実感している。女性が参画するためには、もっと外に出て、人と知り合ってほしい。「声がかかったら後には引くな」が持論。



4 講演「男女共同参画社会づくりに向けて」

内閣府 男女共同参画局長 岡島敦子氏

【要旨】

①女性の活躍と経済・社会の活性化

日本における高齢人口比率が2010年の23.1%から、2055年には40.5%に増加し、また、生産年齢人口比率が63.9%から51.1%に減少することが見込まれる中、今までの「男性が働き、女性は家庭」という考え方では日本の社会は大変なことになる。活用できていない労働力である働き盛りの世代の女性が活躍していくことが優先課題である。男女が共に社会も経済も家庭も担っていくために、今、女性の活躍が求められている。

②農山漁村における女性の状況

農業就業人口に占める女性の割合は半数以上であり、女性は農村と都市との交流、教育等あらゆる分野で活躍している。しかし、「男性が働き、女性は家庭」という考え方が強く、女性が外に出て活躍することに抵抗感が強いのが農林漁業分野の特徴。これが役員に占める女性の割合にも反映されており、例えば農協役員に占める割合は5%弱と非常に低い状況となっている。課題を1つ1つ地域、組織、家族で解決していかなければならない。

③第3次男女共同参画基本計画

現在、平成22年中に第3次男女共同参画基本計画を閣議決定するため作業を進めているところ。この中で、特に、日本では「男性が働き、女性は家庭」という固定的役割分担意識が未だ根強いことを反省点とし、特に男性に着目した意識改革の推進を図っていくこととしている。また、あらゆる分野の意思決定過程の場に女性が参画できるよう目標を設定するポジティブ・アクションの検討、さらに、大きく15の分野に分けて今後5年間どのような施策を講じるか決めようとしている。農山漁村は働き方を自分で決められる利点がある。その利点を活かして活動も仕事もしやすい、豊かな生活ができる働き方を作っていってもらいたい。女性はまずは一歩踏み出してもらいたい。



5 パネルディスカッション

コーディネーター：九州農政局生産経営流通部長 小林博行

パネリスト：藤木智恵子氏（JA 佐賀県女性組織協議会会長）

門畑 一郎氏（南島原市農業委員会会長）

宮本 好美氏

山崎 早苗氏

松原 和恵氏

コメンテーター：内閣府 男女共同参画局長 岡島敦子氏

【要旨】

コーディネーターの司会により、5名のパネリスト及びコメンテーターから男女が共に支え、協力し合う農村社会を創るため、1人1人がどのようなことに取り組んでいけば良いか、自身の取組を踏まえた意見発表や討論が行われました。また、参加者からも積極的な発言が相次ぎ、会場全体で活発な意見交換が行われました。



<藤木智恵子氏>

- ・4年前にJA女性組織の役員に就いてからこんな人生もあるのだと感激している。
- ・1戸1正組合員は昔の話。今は女性も正組合員になる時代。女性もまずは正組合員になって農政のことも勉強してほしい。
- ・これから生き残るJAは女性を受け入れるための変化ができるJAである。



<門畑 一郎氏>

- ・南島原市農業委員会では、市議会に働きかけを行うことで、市議会推薦枠4枠中2名に女性委員が登用されている。
- ・女性委員は、農業者年金に自ら加入し、立場を理解した上で女性農業者に対し年金加入を勧めるなど女性ならではの考え方で活躍している。結果、農業者年金新規加入者数が3年連続全国一となっており、女性の加入率も全国と比べて高くなっている。
- ・男性は女性を認めてあげる、必要とすることが大事。



<宮本 好美氏>

- ・活動を次世代へつなげていくには、子供に農業を楽しんでいる姿を見せること。見た目も大事。夫はいつも「普段着に銭はかけなくていい、仕事着に銭をかけれ」と言う。次回のイベント時にはおそろいのピンクのつなぎでファッションショーも予定している。

<山崎 早苗氏>

- ・農業は血縁にこだわりすぎて地域が疲弊している面があるので、血縁だけにこだわらずに「いろんなやり方があってもいい」と思っしてほしい。
- ・役員等話があれば断らないと決めている。いろんなことを経験することは自分のためになる。ただ、そのためには周りが認めてくれる環境づくりが大事。夫婦でも親子でも人生は別のもの。1人1人が自立すること。

<松原和恵氏>

- ・夫の陰に隠れることは一番楽なこと。しかし、つまらないこと。1度外に出て欲しい。外に出ると楽しいことが倍になって返ってくる。
- ・今はまだ農業委員の前に「女性」がつく。これを自覚しないと次世代に続かない。

<岡島 敦子氏>

- ・今日発表された皆さん、家族など周囲への感謝を持つこと、地域を大事に共に生きていくことを大切にしていると感じた。
- ・男女共同参画とは、家庭も仕事も農業も地域も全ての場において男性も女性も共に担う、共に喜びも分かち合い、責任も分かち合うこと。農業はそれができる分野であるから、ぜひ進めていただきたい。
- ・現在既に活躍されている方は、若い方に手を差し伸べて、背中を押してあげる、一言声をかけてあげる、仲間に入れてあげることで更に進めていただきたい。

